水土里サークル活動

事例集

平成27年9月

鹿児島県水土里サークル活動支援協議会

まえがき

本県での水土里サークル活動は、平成 26 年度末には，県内 41 市町村で，638 組織・約３万７千ヘクタールの農地を対象に，各地域において特色のある様々な活動が展開されております。

また，今年度から，多面的機能支払交付金を含む日本型直接支払制度が法制化され，安定的な制度として実施されることとなり，水土里サークル活動の充実・拡大が期待されているところです。

今回，従来の農地や農業用施設の保全管理のほかに，県内各地の特色ある取組を事例集としてとりまとめ，水土里サークル活動の推進を行う市町村や関係団体で情報を共有するとともに，農業者へ広く紹介することで，今後の活動の充実・強化のお役に立てれば幸いです。

本書の作成に当たり，多大なご協力をいただいた活動組織及び，県・市町村担当者のほか関係者の方々に心から感謝申し上げます。

平成 27 年９月

鹿児島県水土里サークル活動支援協議会

目　　次

❶ トラクター装着モアで草刈を省力化

島中の畑地と集落環境保全隊（喜界町）……1

❷ 耕作放棄地を解消して担い手育成

阿室集落の自然環境保全を守る会（宇検村）……1

❸ 獣害対策の取組

①侵入防止柵の補修

母間キュラサーデ会（徳之島町）……2

②侵入防止柵の管理

秋徳の畑と水と緑を守り隊（瀬戸内町）……2

③対策施設の設置（箱わな）

垂水地区農地・水・環境保全管理協定（垂水市）……3

④対策施設の設置（くくりわな）

大隅南地域環境保全協議会（曽於市）……3

❹ 沈砂池の土砂排除による環境保全

阿権青ばと会（伊仙町）……4

❺ 小学校と連携した農村環境保全活動

田皆環境保全対策向上支援隊（知名町）……5

❻ コスモスロードで地域のつながりを強化

吾平東環境保全協力会（鹿屋市）……6

❼ 景観作物の植栽で住民交流

国上中目環境保全会（西之表市）……7

❽ 農業体験を通じた学校教育との連携で活動のPR

折多校区の自然を守る会（阿久根市）……8

❾「田んぼアート」による地域のつながりの構築

高松地域活動隊（曽於市）……9

⑩ 農村文化の伝承で地域コミュニティの活性化
①田の神講・モーモーどん祭り
飯牟礼・古城環境保全会（日置市）……10
②高江町太郎太郎踊り
高江地区資源保全組合（薩摩川内市）……10
③国上寺之門神社花踊
寺之門部落自然を守る会（西之表市）……11
④田植え祭り
瀬滝農地環境保全会（天城町）……11
⑪ 水路施設の長寿命化
①転倒ゲートの補修で操作性向上
鷹鳥会（霧島市）……12
②水路の嵩上げ補修で災害防止
田口ふるさと活動組織（霧島市）……12
⑫ パイプライン施設の長寿命化
中山環境保全会（中種子町）……13
⑬ 農道舗装を自主施工により経費節減
神山地区環境保全活動組織（南大隅町）……13
⑭ 地域通貨の活用で参加促進と地域の活性化
湯田地区資源保全組合（薩摩川内市）／長峰あじさい会（屋久島町）…14
⑮ 中山間地域等直接支払との重複で効果的な活動
萩元前団地保全会（いちき串木野市）……15
⑯ 広域化による効率的な活動の実施
出水市農地・水・環境保全管理協定（出水市）……16
⑰ 高齢化に対応した１村・１組織で持続的な活動
大和農地環境保全会（大和村）……17

❶ トラクター装着モアで草刈りを省力化

島中の畑地と集落環境保全隊（喜界町）

地域の概要

取組面積	46.0ha（畑 46.0ha）
対象施設	開水路 4.8km，パイプライン 7.3km，農道 8.1km
主な構成員	農業者，自治会，ニコニコ会，青壮年団，婦人会
交付金(H26)	88万円(農地維持，共同)

モア導入の経緯

約２kmの幹線農道の草刈りは，広範囲にわたり，傾斜地も多いことから，従来の草払い機では多くの労力が必要で危険も伴っていた。

また，喜界町は亜熱帯性気候のため4月から11月頃までの雑草の生長は早く，1～2ヶ月に1回の除草が必要であった。

さらに，40戸程度の組織が，区域全体の管理に加え，幹線農道の草刈り作業を行うには人手不足が懸念されていた。

このようなことから，幹線農道の草刈り作業の省力化が重要課題であった。

モアによる幹線農道の草刈り

取組内容

○ 草刈り範囲：幹線農道（約2km）沿いの法面など
○ モアの特徴：刈り取った雑草を粉砕するため，雑草の集積の必要が無い。

交付金の使い道

○ 集落所有の機械を組織がリースして利用。リース代は交付金から支出している。

効果・今後の展望

○ 人力では数十人で２～３日が必要だった草刈りが、モアを利用すると，オペレーターのみで１日～２日で終わり，大幅な省力化が図られた。
○ 急斜面の法面の草刈りがモアを利用することで，安全に行えるようになった。
○ 頻繁に草刈りすることで，雑草が繁茂しなくなったため，ゴミのポイ捨てが激減した。

❷ 耕作放棄地を解消して担い手育成

阿室集落の自然環境保全を守る会（宇検村）

地域の概要

取組面積	5.5ha（畑 5.5ha）
対象施設	開水路 1.6㎞，農道 2.1㎞，ため池 1箇所
主な構成員	農業者，集落，老人会，青壮年団，婦人会，子供会，育成会，分団
交付金(H26)	16万円(農地維持，共同)

地域の現状

本地区は，平成15年～20年度に区画整理，管理用道路，農道整備事業等を実施

近年，農家の高齢化や担い手農家の不足に毎年の台風襲来も合いまって，農地の遊休化が進みつつある。また，耕作放棄地の増加に伴い，周辺農地への悪影響も発生しており，農地の維持・保全に苦慮している。

人力による草刈り

解消された農地

営農再開された農地

効果・今後の展望

○ 地域ぐるみで耕作放棄地を解消し，Ｉターン等の新規就農者が借地して規模拡大につながった。
○ 農地の所有者や管理者等が都会にいるため農地の集積が課題であるが，今後は，校区活性化委員会で島ニンニクの生産加工に取り組む計画もあることから，農地の保全管理を進めながら営農再開につながる活動をしていきたい。

❸ 獣害対策の取組／①侵入防止柵の補修

母間キュラサーデ会（徳之島町）

地域の概要

取組面積	179.0ha（畑 179.0ha）
対象施設	開水路 4.6km，パイプライン 20km，農道 32.1km
主な構成員	農業者，老人会，青年団，PTA，女性連，消防団，水利管理組合，建設業者
交付金（H26）	551万円(農地維持，共同)

現状と取組

徳之島町内では年間300頭あまりのイノシシが駆除されており，母間地区においても相当数駆除されている。侵入防止柵やわな等を設置せざるを得ないが，侵入防止柵設置後の網破れ等の補修に重点を置いた活動も行っている。随時見回りして補修をしなければ効果は見込めず，また，ハブがいることから作業には危険を伴う。

侵入防止柵の補修状況

交付金の使い道

- ○ 補修部品：鉄筋（下部からの進入防止）
- ○ 日当：作業従事者（延べ53名）

総額　約25万円
（侵入防止柵補修延長：２km）

効果・今後の展望

○ イノシシ被害は通年発生しているため，侵入防止柵を定期的に見回り，点検し，必要に応じて補修することが必要である。今後も鳥獣の被害を最小限に抑えるため，侵入防止柵の点検補修を継続していくとともに，今後は新たに，箱わなやくくりわなの設置も検討している。

❸ 獣害対策の取組／②侵入防止柵の管理

秋徳の畑と水と緑を守り隊（瀬戸内町）

地域の概要

取組面積	11.0ha（畑 11.0ha）
対象施設	開水路 4.0km，パイプライン 4.0km，農道 4.1km
主な構成員	農業者，青年団，婦人会，子供会，古仁屋秋徳会，老人クラブ，小中学校
交付金（H26）	34万円(農地維持，共同)

現状と取組

当地域は平成６年度～７年度にかけて，ほ場整備が実施されたが，整備後20年が経過し，施設の老朽化が進んでいる。また，イノシシ等により，カボチャ，タンカン，さつまいも等の作物に被害が及ぶとともに，畑にダニが発生し拡大している。このため侵入防止柵の周辺草刈りを行って設置効果の向上に努めている。

集落総出の草刈りの様子

綺麗になった侵入防止柵の周辺

交付金の使い道

- ○ 燃料代
- ○ 飲み物代
- ○ 作業従事者：23名

※ただし，日当支払いなし

効果・今後の展望

○ 水土里サークル活動で侵入防止柵周辺の草刈りや遊休農地の恐れのあるほ場の草刈りすることで，目に見えてイノシシ等の被害が少なくなってきた。そのため放置されていた農地が利用可能となり，２名の農家が営農を再開した。今後は管理作業の充実・拡大を図り，新たな仲間が増えるよう徹底した管理作業をするとともに，活動範囲の拡大にも取り組みたい。

❸ 獣害対策の取組／③対策施設の設置（箱わな）

垂水地区農地・水・環境保全管理協定（垂水市）

地域の概要

取組面積	444.0ha（田 228.0ha，畑 216.0ha）
対象施設	開水路　139.5km，パイプライン30.8㎞ 農道84.1km　ため池5箇所
協定参加活動組織	６団体
主な構成員	農業者，自治会，育成会，PTA，消防団等，環境保全会，振興連，公民館，用水管理者，土地改良区，農道管理者
交付金（H26）	2,041万円(農地維持，共同，長寿命化)

現状と取組

市全域でサツマイモやビワ等の野菜果樹が食害を受け，農業用ビニールの破損も発生していることから，市は農林課を中心に鳥獣対策隊を結成し捕獲に取り組んでいる。平成26年度はイノシシ330頭，タヌキ，アナグマ50頭を捕獲した。この地域もくくりわなも検討したが，安全な箱わなに頼っている。

マルチ被覆の破損被害

箱わな

わなにかかったイノシシ

交付金の使い道

- ○ 箱わな購入：10基
- ○ 免許取得は市からの支援あり
- ○ 見回り，わな設置　現在無報酬で実施している

総額　約28万円

効果・今後の展望

- ○ わな設置の許可を有する構成員が設置を行い，年間を通じ被害を減らす取り組みを行っている。
- ○ この取り組みにより農業者から感謝され，事業のありがたさを痛感している。
- ○ 今後は箱わなを有効に活用し，農作物被害を減らし，やりがいのある農業を目指したい。

❸ 獣害対策の取組／④対策施設の設置（くくりわな）

大隅南地域環境保全協議会（曽於市）

地域の概要

取組面積	197.2ha（畑 197.2ha）
対象施設	開水路34.6㎞　農道　23.4㎞
主な構成員	農業者，水利組合，公民館，南長才（おせ）会，南小OB会，長寿会，消防団，子供会
交付金（H26）	607万円(農地維持，共同)

現状と取組

この地域はイノシシによる食害が多く、近年はアナグマの被害もいたる所で見られるようになった。地域では侵入防止柵等も考えたが地域が広いため根本的な対策にはならないことから検討した結果、「くくりわな」が最適と考え平成26年度から対策を講じている。

くくりわなの説明

捕獲されたイノシシ

交付金の使い道

- ○ 見回り、わな設置
- ○ 日当：３名分（見回り・わな設置）
- ○ わなの購入：15基
- ○ 講習会：15名分

総額　約54万円

効果・今後の展望

- ○ 水土里サークル活動は平成19年度より取り組んでおり，地域のほとんどの方が理解し，地域農業には必要なものとなっている。その中で地域の声としてイノシシ被害への対応の要望があり，平成26年度からくくりわなによる捕獲に乗り出し，年間20頭を捕獲した。
- ○ 今後はわな免許取得者を増やすことでわなの設置数を増やし，イノシシの被害防止に努めていきたい。

❹ 沈砂池の土砂排除による環境保全

阿権青ばと会（伊仙町）

地域の概要

取組面積	52.0 ha（畑 52.0ha）
対象施設	開水路 9.6 km，農道 14.5km
主な構成員	農業者，青年団，老人クラブ，婦人会，小PTA，育成会，子ども会，工務店
交付金（H26）	160万円(農地維持，共同)

地域の現状

奄美地域の課題である農地からの赤土流出について，環境保全の観点から沈砂池の設置など様々な対策がとられている。阿権地区でも，沈砂池や浸透池を設置して，赤土流出防止に取り組んでいるが，農地から流出した赤土が，沈砂池や浸透池に溜まって流出防止機能が低下するなど，施設の適正管理が課題となっていた。

溜まった土砂の搬出

取組内容

- ○ 沈砂池・浸透池に溜まった土砂を排除し，機能を回復させる
- ○ 排除の時期：点検後必要に応じて実施
- ○ 排除土砂の処分：土捨て場を確保し処分する
  1箇所当たりの土砂排除量：約 1,200㎥
- ○ 1箇所当たりの作業委託に必要な機械等
  2tトラック（1台）＋バックホウ（1台）＋作業員（3人）

交付金の使い道

- ○ 2tダンプリース料（2日）
- ○ バックホウリース料（2日）
- ○ 日当（9人）草刈り作業等

総額　約10万円

沈砂池とは：ほ場の排水路の下流側にある施設で，大雨時に畑から流れ出る濁水に含まれる赤土を，河川や海域へ流出しないようにとどめる施設。池の中には土砂が徐々に堆積し，搬出除去しないと機能は低下する。

効果・今後の展望

- ○ 沈砂池や浸透池に堆積した土砂を，水土里サークル活動組織で定期的に排除するようになったため，地区からの土砂流出が軽減され，環境保全に大きく役立っている。この活動により構成員の環境対策への意識が生まれ，それぞれの農地についても，出来るだけ土砂流出が起こらないように対策をとるようになり，地域の環境保全にとって非常に良い傾向である。
- ○ 今後の取組として，土砂流出防止と景観形成の対策となる農地法面等へのカバープランツの植栽も検討していきたい。

⑤ 小学校と連携した農村環境保全活動

田皆環境保全対策向上支援隊（知名町）

地域の概要

取組面積	188.0ha（畑 188.0ha）
対象施設	開水路 16.7km，パイプライン 3.2km，農道 28.1km，ため池 7箇所
主な構成員	農業者，ふれあい会，婦人会，壮年団，青年団，子ども育成会
交付金（H26）	564万円(農地維持，共同)

地域の現状

水土里サークル活動に取り組む以前は，農道沿いに雑草が繁茂し，病害虫の発生源となったり，ゴミ捨てが横行し，農村景観にも悪影響を及ぼしていた。

このため，保全活動と併せて，地域住民の農村環境保全への意識づくりにも取り組んだ。

児童が作った標語看板

空き缶拾い

取組内容

○ 平成23年度より，田皆小学校と連携して，児童に環境美化に関連する標語を作成してもらい，標語看板を設置，道路の法面に景観に配慮してソテツを植えたり，地域内の清掃活動として空き缶拾いを行うなど地域環境の保全に取り組んでいる。

環境美化看板

交付金の使い道

○ 看板設置枚数　：累計50枚程度
○ 看板制作の経費：4,000円/枚
○ 毎年10枚程度を制作・設置

総額　約４万円

効果・今後の展望

○ 環境美化の看板の設置や施設の清掃（空き缶拾い）等を子どもと地域住民が一緒に活動することで環境の美化に対する意識が高まり，道路沿いのゴミが非常に少なくなるなど，地域全体の環境の改善にも効果が現れている。

⑥ コスモスロードで地域のつながりを強化

吾平東環境保全協力会（鹿屋市）

地域の概要

取組面積	73.8ha（田 73.8ha）
対象施設	開水路7.2km,パイプライン5.6km,農道8.6km
主な構成員	農業者，子供育成会，青壮年部，長寿会，土地改良区
交付金（H26）	679万円(農地維持，共同，長寿命化)

地域の現状

農業者の高齢化に伴い，水路・農道の保全管理には，地域住民の参加が不可欠となっている。

このため，水土里サークル活動組織のPRと地域コミュニティの強化に取り組む必要があった。

コスモスの種まき

家族みんなでスケッチ大会

ゴミ拾い(美化作業)

コスモス吾平東道（アイランド）

『未来に残そう!!自然豊かなふるさと』をキャッチフレーズに水土里サークル活動に取り組む。

取組内容

○ 地区の中央を走る約1.2kmの幹線農道の両側に，9月上旬，コスモスの植栽を行い，『コスモス吾平東道』（コスモスアイランド）の愛称で地域住民に親しまれている。

○ コスモスが満開の時には，子供育成会や地区住民等による地区内の美化作業や子供たちを中心にスケッチ大会を行い，美しい農村環境の中で楽しいひと時を過ごしている。

○ 活動組織が行っている作業は草刈り・水田耕耘・のぼり旗管理

○ コスモス観賞後は緑肥として敷き込む

・植栽面積 ： 72a

・農地の確保：幹線農道沿いの水田耕作者から承諾を得て植栽

・1年間のスケジュール

8月下旬	草刈り 19名
9月上旬	種まき準備 5名
9月中旬	水田耕耘・草処理 17名
〃	種まき 36名
11月上旬	草刈り 17名
11月中旬	美化作業・スケッチ大会 20名

交付金の使い道

○ コスモス植栽経費　総額　約46万円
　日当，種子代，燃料代，飲み物代等

○ ゴミ拾い・スケッチ大会経費　総額　約2万円
　飲み物代，景品代等

効果・今後の展望

○ コスモス観賞には地区内外から多くの人々が訪れ，景観形成とともに，活動PRの良い機会となっている。

○ コスモスの開花に合わせて11月中旬に開催している地区内の美化作業とスケッチ大会は，子供育成会の年間行事として位置づけられ，子どもたちも積極的に参加している。これらの取組を通じて地域コミュニティのつながりが強まり，草払い等の共同活動にも，子供育成会等の非農家の参加も年々多くなってきており，今後も継続して地域活性化への取組として続けていきたい。

⑦ 景観作物の植栽で住民交流

国上中目環境保全会(西之表市)

地域の概要

取組面積	34.1ha（田 6.3ha，畑 27.8ha）
対象施設	開水路 1.9km，農道 10.8km， ため池 1箇所
主な構成員	農業者，自治会，老人クラブ，はまろう会，青壮年部，女性部，育成会
交付金(H26)	130万円(農地維持，共同)

地域の現状

高齢化の進行に伴い，農地の荒廃が懸念されていた。また，少子化により，地域の中心であった中学校が廃校するなどの影響で，地域住民間の交流機会が減少し，地域コミュニティのつながりが弱くなりつつあった。

菜種

ヒマワリ

コスモス

種まき

取組内容

○ 活動の内容
地域の子供達や保護者，老人会，農家が一緒になり，季節毎に景観作物を植栽することで，美しい農村景観を維持するとともに，耕作放棄地の発生防止と植栽による地域住民の交流を図っている。

○ 農地の確保
高齢化により耕作できない農家の田んぼ（15a）を無償で借地

○ 年間の植栽計画
各植栽の時期に合わせて，「耕起～種まき～草取り～緑肥として敷き込み」の行程で行っており，それぞれの種まきを，順番に行っている。

５月にヒマワリ → ９月にコスモス → 11月に菜種

交付金の使い道

○ 事前作業
耕耘：種まきの前に1回ずつ実施
トラクターリース代，日当

○ 種まき
トラクターリース代，日当，図書券
種代・肥料代

○ その他経費
看板設置資材・飲み物代等

総額　約14万円

効果・今後の展望

○ 植栽による景観形成活動を地域の子供達や非農家の保護者・高齢者などが一緒に作業を行っていく事で，交流も活発になり，共同活動への意識も高まってきており，地域の活性化につながっている。

⑧ 農業体験を通じた学校教育との連携で活動のPR

折多校区の自然を守る会（阿久根市）

地域の概要

取組面積	39.2ha (田 39.0ha，畑 0.2ha)
対象施設	開水路 7.5km，農道 8.5km，ため池6箇所
主な構成員	農業者，区，JA農産事業部，小学校，土地改良区
交付金 (H26)	360万円(農地維持，共同，長寿命化)

地域の現状

農業者の高齢化や農家数の減少が進む中，将来にわたり地域農業の維持や農業用施設を保全していくためには，若い世代の農業・農村に対する理解を深める必要がある。

稲刈り

田植え体験

福島の小学校からのお礼の手紙

取組内容

○ 折多小学校3年生や保護者，活動組織，ＪＡ，県・市の参加により，毎年，農業体験を行っている。
米づくり：3a　　苗の確保：ＪＡ鹿児島いずみより購入

○ 農業体験の内容と役割分担
- 除草，防除対策等：活動組織が実施
- 収穫，脱穀：小学校と保護者が参加
- 成長過程の観察：学校で写真を撮るなど記録し学習している
- 収穫米：年末に行う児童・保護者との餅つき体験に利用
- 平成26年は東日本大震災で被災した福島県の「錦東小学校」に収穫した米（60kg）を送り，小学生同士の交流にもつながった。

交付金の使い道

○ 日当（耕耘・代掻き等）
○ 苗代
○ 資材等（肥料，燃料等）
○ 飲み物等

総額　　約４万円

効果・今後の展望

○ 学校教育と連携して米づくりの体験を行うことで，お米の大切さを理解してもらい，同時に一緒に参加する保護者にも活動組織が行っている保全活動のPRも行うことができ，非農家の地域住民からの保全活動への参加が増えつつある。

⑨「田んぼアート」による地域のつながりの構築

高松地域活動隊（曽於市）

地域の概要

取組面積	126.5ha（田 126.5ha）
対象施設	開水路 20.8km，パイプライン 14.1km，農道 16.0km
主な構成員	農業者，連合会，小学校，公民館，消防団
交付金（H26）	597万円(農地維持，共同)

現状と取組

生産基盤の整備された地区であるが，農産物価格の低迷，担い手不足，過疎・高齢化等，地域の農業を巡る環境は厳しい現状にある。

当組織は23自治会と4団体で構成され，平成19年度から水土里サークル活動に取り組んでいるが，地域住民に共同活動への理解と参加を促進する必要があった。

図柄に合せた田植え

見頃を迎えた田んぼアート

取組内容

○ 遊休農地を利用し，地域住民と共同で，デザインから田植え・管理・収穫までを行い，市民祭での販売までを取り組んだ。時間と労力は多くかかるが，地域住民に田んぼアートを楽しんでもらい，組織の活動をPRしながら共同活動への理解促進に取り組んでいる。

○ 参加者：農業者，老人クラブ，地域の非農家

［年間スケジュール］

4月中旬	図柄の検討
6月初旬	苗の種蒔き，田の肥料散布
6月下旬	アート田の下地の植え付け（機械作業）
	図柄の線引き植え付け（手作業）
7月～9月	農薬散布，草取り，看板設置
10月下旬	収穫（種籾用と市民祭での販売用と分ける。）
	収穫した古代米の袋詰め
	（ラベルにアート田写真）
11月初旬	古代米を市民祭で販売
	（売り上げは活動資金へ）

交付金の使い道

○ 日当　（種籾準備～市民祭対応）
○ 購入・リース費　（肥料等，田の耕耘等）
○ その他　（お茶代等）

総額　約90万円

効果・今後の展望

○ 地域ぐるみで，田んぼアートに取り組むことで，地域農業や組織活動のPRができ，地域住民の連帯感を深めることができた。

○ 今後も，田んぼアートを継続し，自分たちの農地を地域で守り，地域営農が維持できる活動内容にしていきたい。

⑩ 農村文化の伝承で地域コミュニティの活性化／①田の神講・モーモーどん祭り

飯牟礼・古城環境保全会（日置市）

地域の概要

取組面積　89.6ha（田 37.6ha，畑 47.0ha，草地 5.0ha）
対象施設　開水路9.7km，農道20.5km　ため池３箇所
主な構成員　農業者，自治会，水利組合
交付金（H26）　589万円(農地維持，共同，長寿命化)

田の神講・モーモーどん祭り とは

この地域では古くから，11月の最初の丑の日に，田の神さぁーに今年の稔りの感謝を捧げ，翌年の豊作をお祈りする「田の神講」を実施。この日は皆で丸餅を作り，五穀豊穣の感謝を込めて田の神さぁーに貼る。

また，牛の労役への感謝を込めて，牛の舌のような細長い餅を作り，田の神さぁーの前で餅を口に咥えて引っ張り合いを行う。

餅貼りで感謝（食べていただく）

餅の引っ張り合い

取組内容

○ 田の神講を平成26年度より「モーモーどん祭り」という名称に変更し，案内看板やのぼり旗を作成。
○ 地域住民の世代間交流を深めるため，自治会やこども会が連携し，奉納のしめ縄作りや餅つき等も体験。

交付金の使い道

○ のぼり旗，看板
総額　約８万円

効果・今後の展望

○ これまでは農業者を中心に祭りが行われていたが，平成26年度より日程を地域住民が参加しやすい週末に変更して，子供たちの参加を促した。これにより，若い世代や非農家の参加が増え，農村文化の伝統継承と地域コミュニティの活性化につながっている。
○ 交付金は祭りの広報の為にも活用しており，祭りのPRの一助となった。今後は，法被を購入し地域へのさらなる浸透を図る予定である。

⑩ 農村文化の伝承で地域コミュニティの活性化／②高江町太郎太郎踊り

高江地区資源保全組合（薩摩川内市）

地域の概要

取組面積　130.9ha（田 130.9ha）
対象施設　開水路26.7km，農道17.8km，ため池 ２箇所
主な構成員　農業者，水利組合,土地改良区，コミュニティ協議会
交付金（H26）　1,153万円(農地維持，共同，長寿命化)

太郎太郎踊りとは

太郎太郎踊りは，約300年前高江新田が誕生した頃から，南方神社の春祭として五穀豊穣と安産祈願のために奉納したものと伝えられている農耕劇である。

神事のあと，主人公のオンジョ(祖父)，テチョ(父)，太郎(息子)の方言丸出しの3人劇で，身振り手振りで面白おかしく踊られる。

昔の農耕作業の素朴さがよく表現されてる貴重な伝統芸能である。

オンジョとテチョ

南方神社

取組内容

○ 県指定無形文化財でもある「太郎太郎踊り」を，地区内外に広くPRするため，活動組織においてのぼり旗を製作。3月第1日曜日の本番前日に県道沿いにズラリと立て，通行中の車や歩行者に対して祭りのPRを行った。

交付金の使い道

○ 高さ2.4メートルの「のぼり旗」2本購入
総額　約４万円

効果・今後の展望

○ 太郎太郎踊りが行われる祭りの経費は，これまで，南方神社からの助成金と寄付金のみでまかなっていた。これまで参加者のほとんどが地区住民だったが，交付金を利用して，のぼり旗を作成し，広く祭りのＰＲを図った結果，地区内外から多くの人達の参加を得ることができた。
○ 今後は，この踊りを子供世代に継承できるよう，祭りのPRや踊りの伝承活動等に交付金を活用し，地域コミュニティの強化と農村文化の伝承を図っていきたい。

⑩ 農村文化の伝承で地域コミュニティの活性化／③国上寺之門神社花踊

寺之門部落自然を守る会（西之表市）

地域の概要

取組面積　33.2ha（田 4.2ha，畑 29.0ha）
対象施設　農道12.0㎞
主な構成員　農業者，御山会，老人会，中会，同志会，育成会，部落会，保存会
交付金（H26）　109万円(農地維持，共同)

国上寺之門神社花踊とは

花踊は，約600年前，都からの落人が島の北端浦田の小浜に上陸し，この寺之門地域に定住した後，都の思い出を踊りに託して伝えたと言われている。
花踊は，ゆっくりしたテンポの優雅な踊りで早苗植えの仕草で，花は稲の苗をかたどり，独特の型で女性だけで踊る。
昭和の初期まで絶えることなく踊られてきたが，戦時中からしばらく中断していた。その後，昭和51年7月に花踊保存会が結成され30年ぶりに復活し，昭和55年には市の無形民俗文化財に指定されている。

練習風景

本番

取組内容

○ 花踊を後世に伝えるため，子どもたちの練習を支援
○ 古くなった装飾品の更新を行った。
○ また，集落からの支援と市から文化活動として年間２万円の補助

交付金の使い道

○ 子供達の練習時飲み物等（4回分）
○ 踊りの花飾りの購入
総額　約１万円

効果・今後の展望

○ 以前は婦人会が主体となって踊っていたが，現在は子どもを含む有志で活動しており，春祭りの豊年祭，秋祭りの願成就，敬老会や文化祭等で披露している。80代の方々が子供達に踊りを指導をし，生きがいにもなっている。また，集落の女性の交流の場にもなっている。
○ 集落外から多くの見物客が来て，多くの人が楽しみにしている祭りで， これからも永く伝えていきたい。

⑩ 農村文化の伝承で地域コミュニティの活性化／④田植え祭り

瀬滝農地環境保全会（天城町）

地域の概要

取組面積　149.8ha （畑 149.8ha）
対象施設　開水路26.3km，農道23.3km　ため池１箇所
主な構成員　農業者，自治会，老人会，育成会，女性連
交付金（H26）　461万円(農地維持，共同)

田植え祭りとは

瀬滝集落は天城町でも標高の高いところにあり，サトウキビを基幹作物とする農村集落である。
島内には水田はほとんど残っていないが。島唄には，田んぼにまつわる唄が今でも継承されている。
田植え祭りでは，100㎡を伝統文化田として，田植え唄・太鼓（チヂン）に合わせて子供達が昔ながらの田植えを再現している。

太鼓に合わせて田植え

田植え唄による踊り

取組内容

○ 自治会　女性団体　PTA　駐在所員（大人150名）を含め主役の兼久小学校・天城中学校の子供達（58名）多数の参加

交付金の使い道

○ 苗代・お茶代等
総額　約5万円

効果・今後の展望

○ 水田のほとんどない地域での田植え祭りは，いつもと違う賑わいを見せる。
○ 田植え祭りを通じて，方言をはじめ，唄や踊りを若い世代に継承することに一役かっている。
○ 集落民の老若男女が一同に会する事が少ないこの時代に，ほとんどの集落民が集い，笑い楽しむことができ，地域のコミュニティづくりに貢献している。
○ 今後は祭りに使う法被やのぼり旗を少しずつそろえて，さらに盛り上げたいと考えている。

⑪ 水路施設の長寿命化／①転倒ゲートの補修で操作性向上

鷹鳥会（霧島市）

地域の概要

取 組 面 積　59.0ha (田 20.4ha　畑 38.6ha)
対 象 施 設　開水路 3.6km，農道 7.4km
主な構成員　農業者，老人クラブ，公民館，消防団，子供会，水土里ネット福山
交付金(H26)　383万円(農地維持，共同，長寿命化)

地域の現状

用水路の転倒ゲートを手動で巻き上げる操作は非常に重労働で苦労していた。また，斜面での操作となることから，足場が不安定で危険を伴い，早急に対策を講じる必要があった。

操作性の悪い転倒ゲート

整備されたクランクスタンド及び階段

取組内容

○ 転倒ゲート本体は既設を利用し，クランクスタンドの設置と付帯工事として階段を設置する改修工事を実施
（注）クランクスタンドとは，倒伏したゲートを少ない力で巻き上げられる装置。
（クランクスタンド）：工場で製作し現場に据え付ける工事
（　階　　段　）：コンクリート軽量ブロックを使用した階段及びクランクスタンド部の操作用平場の設置

交付金の使い道

○ 委託費（制作費・据え付け・付帯工事）
総額　約25万円

効果・今後の展望

○ 倒伏したゲートの巻き上げ作業が，３分の１の力でできるようになり，また操作足場も安定したことから危険な作業が回避され，維持管理作業が大幅に改善された。
○ 同条件のゲート施設が多いため，計画的に補修をしていきたい。

⑪ 水路施設の長寿命化／②水路の嵩上げ補修で災害防止

田口ふるさと活動組織（霧島市）

地域の概要

取 組 面 積　35.4ha（田 35.4ha）
対 象 施 設　開水路 18.9km，農道 3.2km
主な構成員　農業者，公民館，土地改良区
交付金(H26)　326万円(農地維持，共同，長寿命化)

地域の現状

霧島神宮近くの山岳地形を通る用水路で，大雨の際は用水路から越流して，水路の法面が崩壊する被害が度々発生していた。
被災後の復旧は，機械作業が困難な場所のため人力による作業となり，多くの労力を要していたことから，越流防止策を講じる必要があった。

越流防止用のブロック側壁
（用水路カーブ区間）

取組内容

○ 越流が発生する用水路カーブ区間に，越流防止のためのブロック側壁を設置
○ 工法を決定した経緯
　用水路の側壁を嵩上げするためのコンクリート工事をするには大がかりな型枠や諸資材が必要となるが，それらを運ぶための道路がないことから，1個当たりの重量も軽く，施工も容易なコンクリート軽量ブロックを構造の主資材として選定した。

○ 用水路のカーブ外側区間の側壁の上にコンクリート軽量ブロックを2段積で整備
・施工延長　　：30m
・作業人数と日数：6人×3日間
・その他　　：山岳地形のため，ブロック搬入，生コン手練りなど，すべてを人力で作業

交付金の使い道

○ 日　当：約14万円（延べ18人分）
○ 資材費：コンクリート軽量ブロックは市より支給

効果・今後の展望

○ 大雨時でも用水路の越流が防止され，法面の崩壊や農地への被害が無くなり，定期的な施設の点検管理のみの作業に軽減された。

⑫ パイプライン施設の長寿命化

中山環境保全会(中種子町)

地域の概要

取 組 面 積　105.6ha（田 21.1ha，畑 84.5ha)
対 象 施 設　開水路　2.9km，パイプライン　4.7km，農道　23.4km
主な構成員　農業者，自治公民館，老人クラブ，子供会
交付金(H26)　623万円(農地維持，共同，長寿命化)

地域の現状

本地域は，平成10年度～16年度にかけて，県営中山間地域総合整備事業でほ場整備や用水路のパイプライン化を実施したが，完成後16年が経過し，施設の老朽化に伴う機能低下により，営農や維持管理に支障を来していた。

特に，パイプラインの仕切弁の保護コンクリートが劣化によりひび割れし，仕切弁本体に過度な荷重がかかり漏水が発生したため，早急に補修する必要があった。

保護部の劣化で仕切弁に不等荷重がかかる

完成した保護コンクリート

交付金の使い道

仕切弁保護コンクリート　補修工事費

○ 工事期間　44日間
○ 設置箇所数　5箇所
総額　約22万円

効果・今後の展望

○ 仕切弁の保護コンクリートを更新したことにより漏水が解消され，安定した取水と管理が出来るようになった。
○ 地区の中に点在する制水弁等の保護コンクリートは，経年劣化等で保護機能が大幅に低下しており，施設の保全管理の負担を軽減するため計画的に補修を行うことで，施設周りの漏水を未然に防止していきたい。

⑬ 農道舗装を自主施工により経費節減

神山地区環境保全活動組織(南大隅町)

地域の概要

取 組 面 積　123.2ha (田 113.7ha，畑 9.5ha)
対 象 施 設　開水路 26.7km，農道 12.1km
主な構成員　農業者，公民館，土地改良区
交付金(H26)　1,094万円(農地維持，共同，長寿命化)

地域の現状

未舗装の農道は，降雨時に路面が侵食され通行に支障を来しており，発生するわだち等の補修で非常に苦労していた。また，道路からの排水が農地に入り，条件不利地となって耕作放棄地の発生を助長する心配もあった。

（コンクリート舗装施工中）

施工の背景

構成員の中に，重機のオペレーターや左官などの工事に必要な技術を持った人がおり，それぞれの指導のもと，活動組織が協力して工事を実施することができた。

重機オペレーター（2名），左官（1名），大工（1名）

【取組内容】未舗装農道のコンクリート舗装への更新　延長：L＝55m

交付金の使い道

○ 日　当：事前調査（1日）5名分
○ 工　事：(1日)　21名分
○ 資材費：型枠・生コン
総額　約32万円
○ リース料：タイヤショベル1台・バックホー1台
○ そ の 他：燃料代外

効果・今後の展望

○ 農道舗装により，通行の安全確保と営農条件の改善が図られ，耕作放棄地の発生防止にも効果がでている。
○ 直営施工で整備したことにより経費が節減でき，活動計画の変更を行い，整備延長も伸ばすことができた。
○ 非農家を含めた共同作業により，地域内の交流が深まるとともに，農道のみでなく水路などの維持管理に対する参加者の意識が向上しつつあり，草刈り等の日常管理への協力も得られやすくなってきている。

⑭ 地域通貨の活用で参加促進と地域の活性化

湯田地区資源保全組合（薩摩川内市）

地域の概要

取組面積　40.0ha (田 40.0ha)
対象施設　開水路 19.0km，農道 8.2km，ため池 1箇所
主な構成員　農業者，自治会，土地改良区
交付金（H26）　368万円(農地維持，共同，長寿命化)

地域の現状

高齢化及び過疎化等により遊休農地が発生しており，その保全管理に苦慮していた。農家だけでの保全は厳しく，非農家の協力が必要であり，作業参加の日当を地域通貨券で支払うことにより，非農家の住民にも活動に興味をもってもらい，参加促進の効果を期待して導入した。
また，昔は生活の重要な役割を担っていた地域商店も大型店の進出の影響で，衰退の一途をたどっている。

地域通貨券

取組内容

○ 地域内に，数は少ないものの，食料品・雑貨・魚屋・酒屋・コンビニ・温泉施設と多種にわたる商店があり，地域内で流通が可能であることから，共同作業の対価として，参加者へ地域通貨を支給している。
○ これにより，地域商店の活性化が図られ，中でも温泉の入浴料や飲食料としても利用できることから幅広い世代で活用されている。

交付金の使い道

○ 発行枚数：約800枚（500円券）
○ 印刷経費
総額　約１万円

効果・今後の展望

○ 地域通貨券の導入により，活動への参加者が，導入前で90人程度であったのに対し，平成26年度は400人までに増えてきている。
○ また，通貨券は集落内の商店，高城温泉での利用としたため，地域全体の活気が戻ってきており，今後も地域の活性化のためにも地域通貨を継続していきたい。

長峰あじさい会（屋久島町）

地域の概要

取組面積　30.9ha (田 30.9ha)
対象施設　農道 6.0km
主な構成員　農業者，粋生クラブ，婦人会，青年団，子ども会
交付金（H26）　90万円(農地維持，共同)

地域の現状

本地区は屋久島空港や商業施設の建ち並ぶ地域で，混住化が進み非農家率が高くなっている。一方で，高齢化等により遊休地が増えている状況にあり，非農家の保全活動への参加促進を進めるとともに地域活性化の効果も期待できる地域通貨券を導入した。
また，昔よりある地域商店は，住民がお互いに依存しあって，共存していたが，暮らしの変化に伴って，徐々に衰退してきた。

地域通貨券

交付金の使い道

○ 発行枚数：約400枚（500円券）
○ 印刷経費
総額　約6,000円

取組内容

○ 水土里サークル活動をきっかけに，集落の構成員間で話し合い活動を活発に行った。
○ 活動の日当として地域通貨券を発行し，集落内の日用雑貨店，飲食店，日帰り温泉，ガソリンスタンド，野菜共同販売所等の７店舗で使用可能とした。
○ 基礎活動の草刈りを行いながら，あじさいの植栽などの環境美化活動や遊休農地の解消にも努めている。

効果・今後の展望

○ 地域通貨により，今まで地域活動に参加していなかった人たちの参加が増え，平成19年度の80人に対し，平成26年度は，130人と増えてきている。
○ また，活動への参加が増えることにより，農道の管理や獣害防護柵の維持管理等まで保全管理が行き届くようになるとともに，地域の活性化にもつながってきている。

⑮ 中山間地域等直接支払との重複で効果的な活動

萩元前団地保全会（いちき串木野市）

地域の概要

取組面積	10.3ha (田 9.8ha，畑 0.5ha)
対象施設	開水路 4.9km, 農道 4.0km, ため池 1箇所
主な構成員	農業者，れいめい羽島協議会，羽島小学校
交付金（H26）	55万円(農地維持，共同) 79万円(中山間直払)

地域の現状

耕作放棄地が増え，担い手育成を地域で検討している中，平成18年度から中山間地域等直接支払を導入して活動をスタート。

高齢化が進む中，農地の保全さえ難しくなるとの危機感から，平成26年度から水土里サークル活動を開始。

取組内容

○ 水土里サークル活動と中山間地域等直接支払を組み合わせた地域共同活動を実施

［水土里サークル活動］
- 農地周りの草刈り
- 水路の泥上げ
- 小学校と連携した米づくり体験

［中山間地域等直接支払］
- 水路の共同防除
- 共同水田での営農活動
- 田の神子供相撲大会
- 地域住民の「秋上げ」交流

子どもの米づくり体験に，地域の関連行事を組み合わせることで，地域コミュニティの交流を拡大

農家による田植え指導

稲刈り後，田の神子供相撲大会

餅をほおばりながら「秋上げ」交流

効果・今後の展望

○ 水土里サークル活動により，子供たちは田植えから稲刈り加工まで一連した農業体験を通じて，お米ができるまでの過程・食の大切さを学んでいる。また，中山間地域等直接支払の経費を活用して，農村行事の田の神子供相撲大会や秋上げ交流を行うなど，両者が連携することで，子供も大人も地域を上げた交流の場の形成が促進されてきている。

○ 農業を核とした地域コミュニティの形成が図られ，非農家に対して水土里サークル活動への参加呼びかけが非常にやりやすくなってきており，次第に非農家の参加者が増えてきている。

○ これらの活動は，高齢農業者と子供たちのふれあいによる連帯感が生まれ，子供の見守り・声掛け運動にもつながっている。

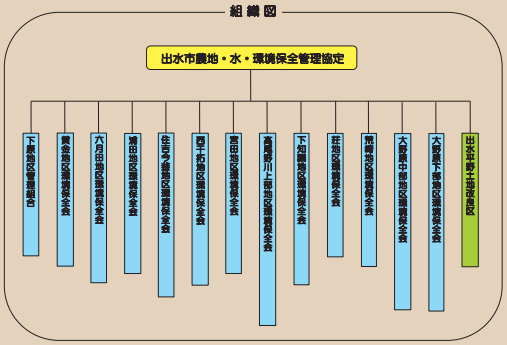
○ れいめい羽島協議会を中心とした地域の協力により，農業者のみならず漁業関係者等の保全活動への参加が増している。今後とも多様な主体の参画と交流促進に努め，農業・農村の有する多面的機能の維持増進と地域の活性化を図っていく。

⑯ 広域化による効率的な活動の実施

出水市農地・水・環境保全管理協定（出水市）

地域の概要

取　組　面　積　1,101.7ha
（田　780.6ha,
畑　321.1ha）
対　象　施　設　開水路　245.2km,
パイプライン
15.5km,
農道225.1km,　た
め池　5箇所
協定参加活動組織　13団体
主　な　構　成　員　農業者・環境保全会・土地改良区・自治会・子ども会・老人会・小学校・あけぼの会・長寿会・権兵衛会・プールの会・建設会社・防災班・長寿会・青壮年会・JF・公民館・消防団・育成会・彼岸花会
交　付　金（H26）　8,193万円(農地維持，共同，長寿命化)



地域の現状

第1期対策においては3地区が活動を実施しており，他地域についても活動を要望する声もあったが，地域によっては高齢化やリーダー不足が組織設立の弊害となっていた。

そこで，組織設立が困難な地域をカバーし事務負担の軽減や地域間で交付金の弾力的な活用が可能な広域組織を立ち上げた。

現在では13団体で約1,100haの広大な農地を保全管理する広域組織となった。

代表者による合意形成（運営委員会）

広域化によって単年度に完成した水路

整備前

整備後

取組内容

［維持・共同の取組］

○　草刈り・泥上げ等の基礎的活動については，それぞれの組織単位で行っている。また，景観形成の花植や目地補修等の作業は，慣れた経験者のいる地区組織から派遣するなどお互いが支援できる体制をとっている。

整備前

整備後

［長寿命化の取組］

○　長寿命化については，土地改良区を中心として，整備計画等の調整を行っている。地域によっては集中的に単年度で完成させるなど，地域のニーズに合わせて効率的に実施している。

［活動費の流れ］

○　土地改良区に事務委託を行い，会計処理システムの導入により，活動経費の支払や活動の整理を行うなどの合理化を図っている。

・各組織は1週間分の活動の実績を報告

↓

・月末で締め，翌月の10日頃に各組織の通帳へ入金

効果・今後の展望

○　広域化に取り組んだことで，高齢化等による事務負担の問題等が解決し，また活動を行っていく上の地域間の連携体制が整ったことから，第2期対策からは徐々に活動区域を拡大し，平成26年度は13活動組織により農地維持活動を実施し，そのうち11活動組織は長寿命化にも取り組んでいる。

○　交付金は面積に応じ交付されるため，小さい活動組織では大規模な施設の更新等を実施できなかったが，広域化したことにより，小面積の組織においても，適切な時期に更新等の事業が可能となった。

○　他組織の活動内容を見ることで，各組織間の連携が図られるとともに，組織全体の意識改革にも役立った。

○　活動内容についてのアイデア等も共有できる。

○　資材の共同購入等による経費の節減についても今後は検討していく。

⑰ 高齢化に対応した1村・1組織で持続的な活動

大和農地環境保全会（大和村）

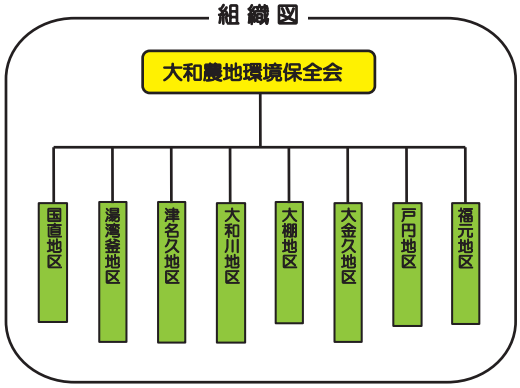
地域の概要

取組面積	46.0ha (畑 46.0ha)
対象施設	開水路 9.7km，農道 24.6km，パイプライン 36.4km
主な構成員	農業者，青年団，老人クラブ，婦人会，水利組合，集落，壮年団
交付金 (H26)	134万円(農地維持，共同)

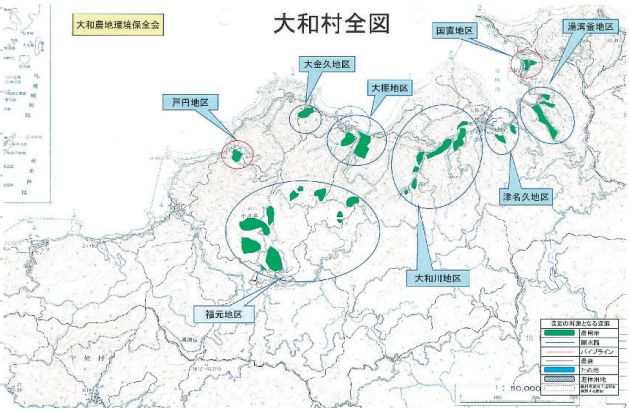
地域の現状

大和村では，集落や農地が点在しており，高齢者が多い集落もあることから，集落単位での活動組織設立は困難であり，将来的に農用地の保全状況が悪化して行くことが懸念されていた。このため，持続的に農地や農業用施設を保全する体制づくりを行う必要があった。

組織図



大和村全図



取組内容

○ 村全体を一括りとした活動組織を設立し，草刈り等の基礎活動は地区毎に，経年劣化の進んだ施設の管理・補修は村内一円で優先順位を決めて活動を行っている。

○ また，各地区からの活動実績は，統一した報告様式によりスムーズな書類作成を可能とし，地区毎の活動にばらつきが生じないよう，行政等も協力して活動内容の一元化を図っている。

○ 予算は，各地区に面積割で配分せず，弾力的に地区間の予算を流用をして，交付金を有効活用するよう工夫している。

総代会
・集落の代表及び各組合の代表，役員により年1回開催

作業前打合せ
・作業前に安全確認と作業内容等の確認を行う

全体作業
・各組合毎に年1～2回の全体作業
（燃料代・飲み物代等を支給）

バックホウ等の技術を伴う作業は，免許のある構成員が班をつくり作業を行う

効果・今後の展望

○ 村全域を一括りとした活動組織とすることで，持続的な組織活動が可能となった。また，活動計画の検討，実施，実績報告などの各地区が行う活動に対し，役場の一括管理により統一的な指導，助言や事務の総括により，高齢者の多い集落も活動に参加しやすくなった。

鹿児島県水土里サークル活動支援協議会

□事務局（土改連）
〒892-8543 鹿児島市名山町10-22
鹿児島県土地改良事業団体連合会（事業部 農村整備課）
電話 099-223-6135　FAX 099-224-6228

水土里サークル活動
イメージキャラクター「ウーさま」

［表紙写真］

◎かごしまフォト農美展より

左上：米元 茂雄「手塩の賜物」（南九州市）
左下：堀ノ内 靖「農道補修」（日置市）
右下：小湊 美恵「秋桜の種まき」（南さつま市）

◎活動記録写真より

右上：高江地区資源保全組合（薩摩川内市）